

長崎県時津町元村郷の「疱瘡墓」調査

The Research Report on Smallpox Tombs
at Motomura area in Togitsu Town, Nagasaki Prefecture

野上 建紀
賈 文夢
石橋 春奈
田中 正幸

Nogami Takenori
Jia Wenmeng
Ishibashi Haruna
Tanaka Masayuki

長崎県時津町元村郷の「疱瘡墓」調査

長崎大学 野上 建紀

長崎大学 賈 文夢

長崎大学 石橋 春奈

長崎大学 田中 正幸

The Research Report on Smallpox Tombs at Motomura area in Togitsu Town, Nagasaki Prefecture

Nogami Takenori (Nagasaki University)

Jia Wenmeng (Nagasaki University)

Ishibashi Haruna (Nagasaki University)

Tanaka Masayuki (Nagasaki University)

Abstract

This paper is the research report on the smallpox tombs located in Motomura area, Togitsu Town, Nagasaki Prefecture in February and April 2021. These smallpox tombs were discovered during road construction in 1980's. Not only the deads from smallpox but also the victims of the atomic bomb were buried in this cemetery, and a memorial monument was built nearby. The authors investigated a total of 68 tombstones in the cemetery. The oldest year of death is 1706 and the newest year is 1841. It turns out that it was a graveyard for over 130 years. The sherds of ceramic collected in the vicinity is Hizen porcelain from the 18 th to 19 th centuries. Most of them are blue and white porcelain. The most common type is bowls.

Key Words: Smallpox tomb, Atomic bomb victims, Memorial monument, Nagasaki

はじめに

「平等處 この塚は戦死病死せられた数知れぬ方々の引取者不明の骸を埋葬したる場所
で有り町民共々命の尊さを遠く後世に伝えるものである」

これは長崎県時津町（図1）の元村郷に所在する「俱会一處」の慰霊碑（図12）の側面

に刻まれた銘文である。戦死とは原爆による被爆死であり、病死とは天然痘の罹患による病死を示すものと思われる。原爆で犠牲になった人も天然痘で亡くなった人も区別されることなく、ともに慰霊する碑文である。平等處という言葉にもその意味が込められている。もともと「疱瘡墓」（天然痘の病死者の墓地）であった地に原爆被爆者の遺体が埋葬されたという経緯から立てられた慰霊碑である。

今回、こうした経緯をもつ時津の疱瘡墓の調査を行った。本文はその調査報告である。

1 調査の経緯

2017年3月、長崎新聞で時津の元村郷の慰霊碑についての記事が連載された(犬塚2017)。この記事をもとにこの慰霊碑の経緯について述べていく。1980年代に時津町元村郷から長崎市畝刈に抜ける臨港道路畝刈時津線の建設が行われた。その際に埋葬された遺骨が出土した。

原爆投下後の時津村では、時津国民学校と萬行寺が被爆者の主な救護所となり、2ヶ所で合計879人が収容され、107人が死亡、うち84人が土葬されたという。その土葬場所の一つがこの元村郷の疱瘡墓であったといい、戦前は死んだ馬や牛を埋める場所であったという証言もある。

長らく人の手も入らず荒れるに任されていたが、前述の道路建設の際に古い石塔（墓石か）や出土した骨を近くの町有地に移し、1984年に慰霊碑が立てられた。やがて雑草が覆い、荒れてしまったため、1994年に文化の森公園を整備した際に現地を整備し、慰霊碑に台座をつけたという。しかし、その後もまた雑草に埋もれ、放置されていることを憂いた地元の有志が町に参拝路を要望した結果、2017年に慰霊碑が遊歩道脇の現在の場所に移設された(図10)。その際、墓石自体は移されていない。

以上がこの「疱瘡墓」の経緯である。現地は町有地であるため、時津町に立ち入り調査と簡易的な草刈りの許可を得た上で、2021年2月19日に事前調査、4月24日に現地調査を行った(図14・15)。新型コロナウイルス感染拡大に伴う三度目の緊急事態宣言が4都府県（東京、大阪、兵庫、京都）に対して出される前日のことである。

調査参加者は、2月の事前調査が野上建紀（長崎大学多文化社会学部・多文化社会学研究科教授）、賈文夢（長崎大学多文化社会学研究科博士前期課程1年）の2名、4月の現地調査が野上・賈の他に石橋春奈（長崎大学多文化社会学研究科博士前期課程1年）、田

中正幸（長崎大学多文化社会学部3年）の4名である。現地調査後の墓碑銘の整理と採集遺物の実測・トレースなどの図表の作成は買が行った。

2 調査内容

疱瘡墓の調査に先立ち、付近の野田郷にある天然痘流行ゆかりの大原野神社（摩利支天社）（図2）の踏査を行い、元村郷の疱瘡墓（図9～11）では墓石調査と陶磁器のサンプル採集を行った。

（1）大原野神社（摩利支天社）（図3～8）

時津町教育委員会による現地の説明板によると、摩利支天は元禄14年（1701）に富永五郎左衛門の建立に始まり、享保19年（1734）に天然痘が大流行した際に草庵が建てられたとされる。その後、安政3年（1856）に草庵は拝殿として建て直され、明治元年（1868）に大原野神社と改称されたという。建雷神・天児屋根命・布津主命・摩利支天の神々と加藤清正などを祀っており、戦いの神として信心を集めていた。境内には「大正三四年戦役記念碑」（図5）など戦争にまつわる石碑も残されている。現在は時津町野田、左底、久留里、長崎市横尾の氏神として祀られている。

頂上の摩利支天（大原野神社上宮）（図8）からは時津の街や大村湾を望み、元村郷の疱瘡墓群のある丘陵も望むことができる。拝殿（図4）のある広場には、「明和二年八月吉日」（1765）銘の石製の手水（図6）、「安永五天九月吉日」（1776）銘の石灯籠（図7）、「寛政二年庚戌」（1790）銘などの石造物があり、継続して信心を集めていたことがわかる。

（2）疱瘡墓の墓石群（図13～19）

元村郷の「疱瘡墓」の墓石群は二つのグループに分けられる。一つは石垣の一部として利用されている38基の墓石群（M-1～38）（図16）、もう一つは平坦部に設置された慰霊碑の土台とみられるものを囲うように置かれた30基の墓石群（M-39～68）（図17～19）である。前者の墓石は石垣の最上段に並べて埋め込まれたものであり、ほとんどが正面のみ観察が可能なものである。後者については墓石が2列ないし3列に並べられているので、そのままでは文字を判読することはできないが、墓石は地面に直接置いてあるだけである

ため、少しずつずらしながら判読していった。

一つ一つの墓石に固有番号をつけ、それぞれ墓碑銘等を読み取っていった。強力な懐中電灯を壁面にあてたり、片栗粉を擦り込んだり肉眼で確認していった。判読不明な文字については写真を撮影し、波佐見町教育委員会の盛山隆行氏に判読を依頼した。

判読できた墓石の中で最も古い没年の刻年は宝永年間、そして、最も新しい刻年は天保年間である。百数十年にわたって埋葬が行われてきたことがわかる。大きさと形状にあまり違いは見られない。いわゆる「楕形」とよばれるものがほとんどである。

なお、原爆の犠牲になったとみられる墓石や石塔は確認されなかった。

(3) 墓碑銘

68基の墓石に刻まれた戒名等、俗名、没年月日を一覧表にまとめた(表1・2)。没年が判明しているもので最も古い墓石は宝永3年11月17日(1706)没の「釋妙林信女」墓(M-7)であり、最も新しい墓石は天保12年1月3日(1841)没の「釋了智信士」墓(M-49)である。少なくとも130年以上の間、疱瘡墓の区域であった可能性がある。

ほとんどの墓石にはそれぞれ1名のみ戒名等が刻まれているが、1基のみ2名の人が供養されている。そのため墓石の数からわかる亡くなった人の数は69名である。そのうち、戒名から性別が判明するものは59名であり、うち男が28名(うち、子供が4名)、女が31名(うち、子供が2名)である。その他、性別不明の中には女性の戒名等に多く使われる「妙」字を持つものが3~4名いる。

没年をみると、約130年の間、たびたび疱瘡が流行し、亡くなっていることをうかがわせるが、年代に偏りがみられる。1~2年の間に複数名が亡くなっている例が多い。死因が疫病の感染流行であることを考えれば当然であろう。例えば、享保18年(1733)2~4月の間に3名、延享2~3年(1745~1746)に2名、宝暦3~4年(1753~1754)に5名、明和6~7年(1769~1770)に5名、安永3年から8年(1774~1779)にかけて13名、寛政元年(1789)に2名、寛政5~6年(1793~1794)に2名、享和4年・文化元年(1804)に2名、文化10年(1813)に3名の人が亡くなっている。特に安永年間には多くの犠牲者が出たことがわかる。

(4) 採集磁器 (図20)

石垣下で少量の陶磁器のサンプル採集を行った。肥前系の磁器碗、皿、鉢である。いず

れも18～19世紀の製品である。ほとんどが染付であり、少量白磁（図21-4）がみられる。碗は丸碗が多いが、小広東形碗、広東形碗もみられる。波佐見焼の他、現地に最も近い長与皿山の製品も含まれていると推定される。

丸碗は重ね積みするために蛇の目釉剥ぎされたもの（図21-1・5・8）がある。丸碗の主文様（外面文様）は竹笹文（図21-1）、雪輪草花文（図21-3・6）、丸文（図21-8）、草花文（図22-9）、折れ松葉文（図22-10）、二重網目文（図22-12）、コンニャク印判による井桁文（図22-15）などがある。見込み文様は濃みによる丸文（図21-5）、コンニャク印判による五弁花文（図21-8）などがある。高台内銘は崩れた「大明年製」銘（図22-9・13）がある。

小広東形碗は独釣図が描かれたものが1点のみ採集されている（図21-2）。広東形碗は外面に掬花文、見込みに寿字文を入れたものがある（図21-7）。

皿は染付皿の小片がみられる（図22-14）。鉢は高台脇に波文を描いたもので見込みにも文様が描かれている（図21-11）。

ほぼ完形のものもあることから、生活の使用過程で壊れて廃棄されたものではなく、墓前に供えたものか、使用が中断されたものであろう。前者は疱瘡墓に伴うもの、後者であれば詳細は不明であるが、いわゆる疱瘡小屋に伴うものである可能性がある。つまり、墓石などは現在の場所に移設されたとあるが、とても近い場所であったことを示唆している。

おわりに

2017年3月9日の長崎新聞の記事には「被爆者が伝染病死者や牛馬と同じ場所に葬られたという事実は、現代の感覚では衝撃的だ。」との記載がある。ピースサイト関連企画の記事であり、被爆者やその関係者の視点からの思いとみられるが、牛馬はともかく伝染病死者への差別はそのまま置き去りにされている。罪なき伝染病患者や死者への差別の根深さであり、それは伝染病への恐怖の裏返しでもある。

現地の歴史は何度も忘れられている。疱瘡墓が忘れられ、被爆者の埋葬が忘れられ、慰霊碑もまた度々忘れられた。そういう忘れられる場所であるからこそ、疱瘡墓の場所として選ばれたのでもある。それゆえ疱瘡墓に関する情報はとても少ない。

伝染病患者が忘れ去られるほど隔離され、忌避された結果、その社会集団はウイルスや細菌の攻撃をかわせたとも言える。その意味、隔離された伝染病患者はウイルスや細菌を

抱え込んで犠牲となった存在である。疱瘡墓は感染症との戦いの上の犠牲を知る記憶媒体であり、失われる前にそれをとどめることは大事な仕事だと考える。

引用文献・参考文献

- 犬塚泉2017「名もなきいしぶみ被爆無縁仏をめぐって 上・中・下」(長崎新聞2017年3月7・8・9日掲載)
- 野上建紀・賈文夢2021a「波佐見中尾山の「疱瘡墓」について」『金沢大学考古学紀要』42号113-134頁
- 野上建紀・賈文夢2021b『中尾郷の近世・近現代墓－2020年度「波佐見町文化的景観」に関する基礎調査(中尾山墓地編)－』長崎大学多文化社会学部



図1 時津町位置図



図2 大原野神社と「疱瘡墓」位置図

研究資料



図3 大原野神社石鳥居



図4 大原野神社拝殿



図5 大原野神社境内の石造物



図6 「明和二年八月吉日」銘手水



図7 「安永五天九月吉日」銘石灯籠



図8 大原野神社上宮



図9 大原野神社上宮から「疱瘡墓」のある丘陵（矢印）を望む（北西から）



図10 慰霊碑と「疱瘡墓」位置図

研究資料



図11 「疱瘡墓」遠望（矢印）（西から）



図12 「俱会一處」慰靈碑



図13 「疱瘡墓」近景



図14 「疱瘡墓」調査風景



図15 「疱瘡墓」調査風景



図16 石垣に用いられた「抱瘡墓」(M-14～38)



図17 「抱瘡墓」(M-52～68)



図18 「抱瘡墓」(M-39～45)



図19 「抱瘡墓」(M-39～68)



図20 「抱瘡墓」周辺採集陶磁器

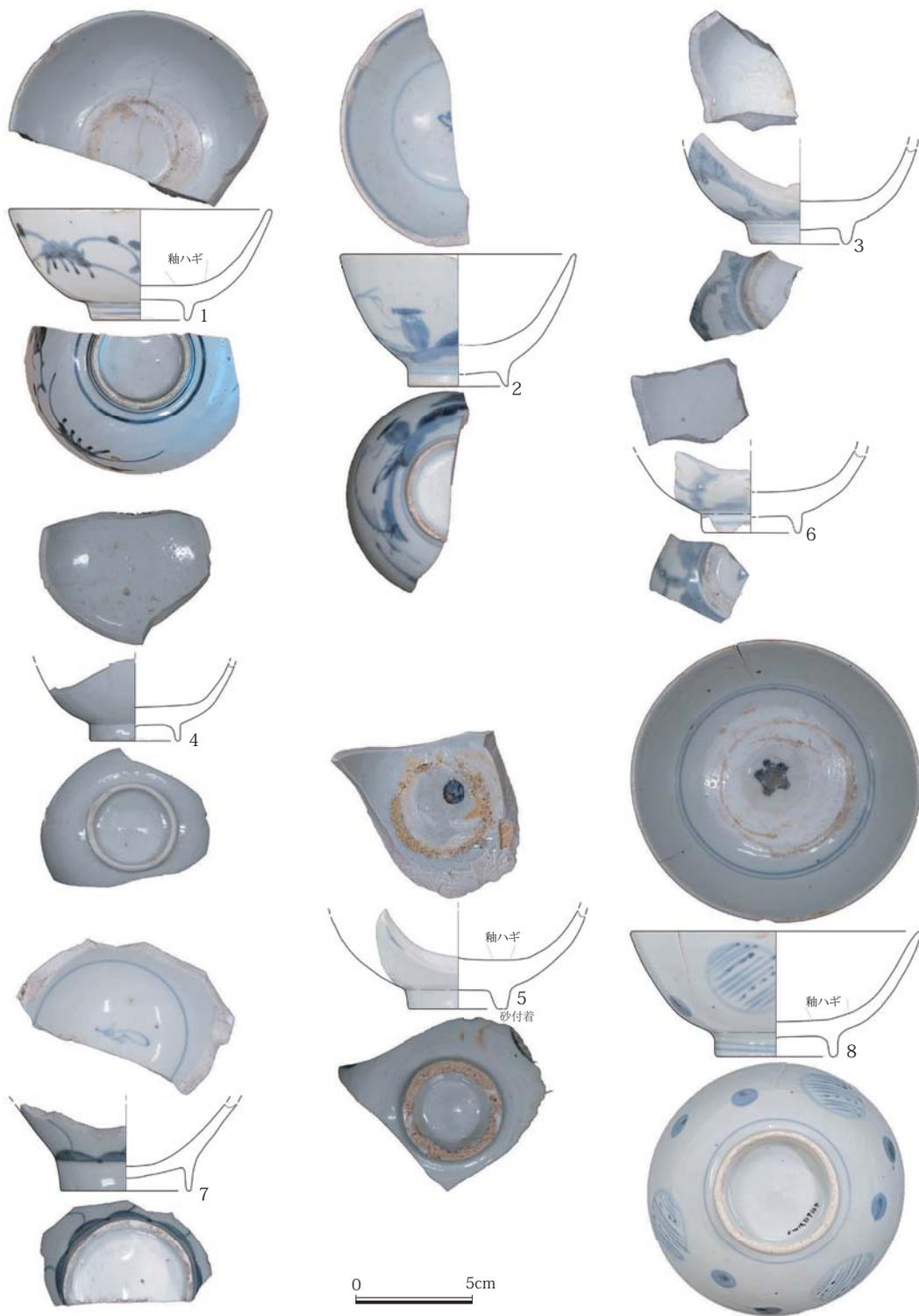


図 21 「疱瘡墓」周辺採集遺物（1）

（作図：買文夢）

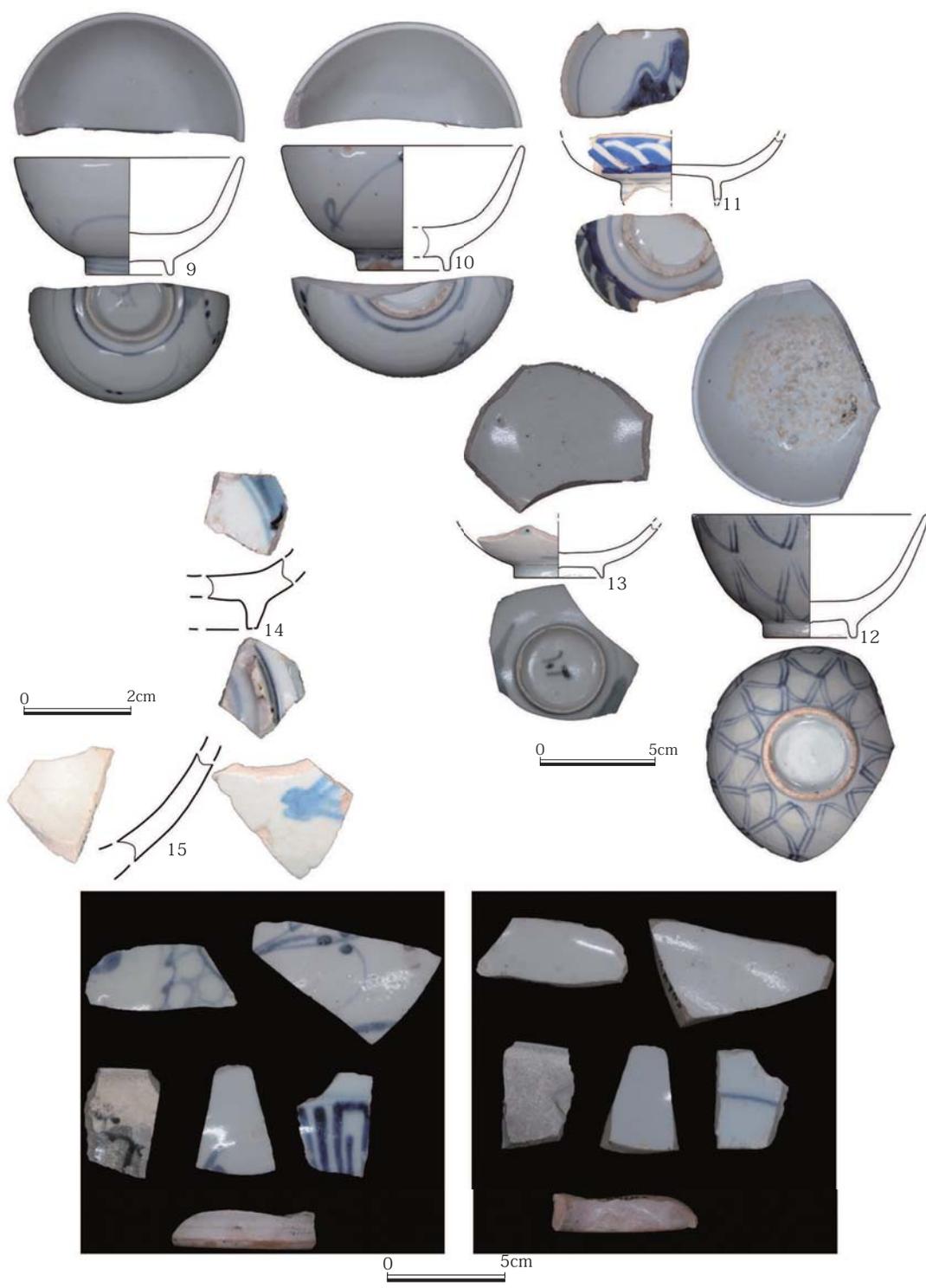


图 22 「疱瘡墓」周辺採集遺物 (2)

(作図：賈文夢)

No.	法名・戒名	俗名	没年月日	西暦
1	妙法宗?霊		延享二乙丑天十二月廿日	1745
2	釈妙智童女			
3	法順達院理貞信士			
4	釋静安童			
5	釋妙?信女		文化十酉天十一月十八日	1813
6	釋智辨童女		安永七年?十二月十日	1778
7	釋妙林信女		宝永三年十一月十七日	1706
8	眞如釋教誓信士霊			
9	釈教訂信士		安永八年亥天十月廿九日	1779
10	釈智瑞信士			
11	妙法妙栄信女		文化十酉天八月十八日	1813
12	妙法妙壽信女			
13	妙法妙仙信女		延享三丙寅天二月廿七日	1746
14	霊譽験誓信士塔		享保十八癸丑歳四月朔日	1733
15	釋妙可信女			
16	歸眞釋寂心信士		享保十八年二月廿六日	1733
17	妙法妙生信女		安永七戌天三月?日	1778
18	妙法妙善霊			
19	釋妙慶信女霊			
20	妙法妙園信女		寛政元酉天五月十六日	1789
21	釋照念信士			
22	釈教西信士			
23	釋妙春信女			
24	法名釋教西信士	? ? 八	寛政十二年申九月四日	1800
25	妙喜信女		寛政三亥歳正月二十一日	1791
26	釋?西信士			
27	釈道心信士			
28	觀隨信士		安永七戌年四月廿六日	1778
29	一如妙衍信女		享保十八癸丑三月十日	1733
30	釋妙秋信女		明和六丑天十二月六日	1769
31	法名釋妙永信女			
32	釋淨休信士	久三良	天明四辰閏正月十七	1784
33	妙法妙雲信女			
34	釋教雲墓			
35	釈妙蓮信女		宝曆三酉天六月八日	1753
36	釈智雲童子		寛政五丑歳十二月五日	1793
37	智正童子		明和	
38	慈雲妙題信女	…女	宝曆四甲戌天閏二月廿六日	1754
39	釋妙心信女	?い?	安永八亥二月二日	1779
40	釋淨元信士			
41	釋妙芳灵	小治	明和七寅四月十一日	1770
42	釋妙可信女		享和四子年三月廿九日	1804
43	釈淨雲信士		安永五申天五月廿六日	1776
44	妙法岳幽信士		安永三年天四月廿七日	1774
45	釈教扶童子		明和七寅二月四日	1770
46	妙法隨信女		安永八亥九月廿・十八日	1779
46	眞如釈妙閑信女		安永八亥年十年?日	1779
47	妙法版善信士	新兵衛	文化四年丁卯正月十日	1807

表1 「痾瘡墓」戒名等・俗名・没年月日一覧表(1)

(作成: 賈文夢)

No.	法名・戒名	俗名	没年月日	西曆
48	妙法妙林信女		明和七寅五月十三日	1770
49	釋了智信士	興助	天保十二年丑正月三日	1841
50	法名釋妙元信女		文化元子年十二月十二日	1804
51	妙法妙林信女		享保十四年六月十五日	1729
52	釋妙瑞信女		寶曆三西六月廿八日	1753
53	法名釈教賛信士	吉三良	文化十西天十二月九日	1813
54	釋得…		…午二月…	
55	釈妙西信女		寶曆四戌十月二日	1754
56	釋妙登信女	□□清兵衛妻	文化十四年丑正月六日	1817
57	釈休心信士	?兵衛	安永八亥二月十八日	1779
58	妙法常清信士	市作	明和七庚寅天四月十九日	1770
59	…為墓		…永八亥天…	1779
60	法妙存…		正…巳正月廿一…	1713?
61	釋妙智灵		寛政元酉四月廿一日	1789
62	妙法理圓信…		安永八己亥十月九日	1779
63	釋智了信士		寶曆三西天七月朔日	1753
64	法名釋浄念信士		安永七戌天十月九日	1778
65	晴量童子		寛政十三酉年正月廿二日	1801
66	釋了圓信士		寶曆十一巳年十月十三日	1761
67	妙法妙山信女	まし	寛政六寅十二月十八日	1794
68	…雲信女靈			

表2 「疱瘡墓」戒名等・俗名・没年月日一覽表（2）

（作成：賈文夢）